



IPv6 の拡張ネイバー探索キャッシュ管理

- [IPv6 の拡張ネイバー探索キャッシュ管理 \(1 ページ\)](#)
- [IPv6 ネイバー探索のパラメータのカスタマイズ \(2 ページ\)](#)
- [例：IPv6 ネイバー探索のパラメータのカスタマイズ \(3 ページ\)](#)
- [その他の参考資料 \(3 ページ\)](#)
- [IPv6 ネイバー探索の機能履歴 \(4 ページ\)](#)

IPv6 の拡張ネイバー探索キャッシュ管理

ネイバー探索プロトコルは、障害のあるノードまたはデバイス、およびリンク層アドレスの変更を検出できるネイバー到達不能検出を実行します。ネイバー到達不能検出プロセスは、ホストからホスト、ホストからデバイス、デバイスからホストへの通信など、ホストとネイバーノード間の全パスの到達可能性情報を保持します。

ネイバーキャッシュは、リンクレイヤアドレスへの IPv6 リンクローカルアドレスまたはグローバルアドレスに関するマッピング情報を保持します。ネイバーキャッシュは、ネイバー到達不能検出プロセスを使用して、ネイバーの到達可能性の状態に関する情報も保持します。ネイバーは、次の 5 つのうちいずれかの状態になります。

- **DELAY**：ネイバーの解決は保留になっており、トラフィックがこのネイバーに流れる可能性があります。
- **INCOMPLETE**：アドレスの解決中であり、リンク層アドレスはまだ不明です。
- **PROBE**：ネイバーの解決中であり、トラフィックがこのネイバーに流れる可能性があります。
- **REACHABLE**：最後の到達可能時間間隔内でネイバーに到達可能であることがわかっています。
- **STALE**：ネイバーは解決を必要としており、トラフィックがこのネイバーに流れる可能性があります。

非送信要求ネイバーアドバタイズメントからエントリを収集するネイバー探索プロトコルを設定するには、`ipv6 nd na glean` コマンドを使用します。

ネットワークの中断時にネイバーのネイバー探索キャッシュエントリを保持するようにネイバー探索プロトコルを設定するには、**ipv6 nd nud retry** コマンドを使用します。

ネイバーへのトラフィックフローがない場合でも、ネイバー探索キャッシュエントリを保持するようにネイバー探索プロトコルを設定するには、**ipv6 nd cache expire refresh** コマンドを使用します。

IPv6 ネイバー探索のパラメータのカスタマイズ

IPv6 ネイバー探索のパラメータをカスタマイズするには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	interface type number 例： Device(config)# interface gigabitethernet 1/1/4	インターフェイスタイプと ID を指定します。インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	ipv6 nd nud retry base interval max-attempts [final-wait-time] 例： Device(config-if)# ipv6 nd nud retry 1 1000 3	ネイバー到達不能検出でネイバー送信要求を再送信する回数を設定します。
ステップ 5	ipv6 nd cache expire expire-time-in-seconds [refresh] 例： Device(config-if)# ipv6 nd cache expire 7200	IPv6 ネイバー探索キャッシュエントリの期限が切れるまでの時間を設定します。
ステップ 6	ipv6 nd na glean 例： Device(config-if)# ipv6 nd na glean	IPv6 ネイバー探索キャッシュエントリの期限が切れるまでの時間を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 7	end 例： Device(config-if)# end	インターフェイスコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 8	show ipv6 interface 例： Device# show ipv6 interface	(任意) ネイバー探索キャッシュ管理と IPv6 用に設定されたインターフェイスのユーザビリティのステータスを表示します。

例：IPv6 ネイバー探索のパラメータのカスタマイズ

次の例では、IPv6 ネイバーアドバタイズメントの収集が有効になっており、IPv6 ネイバー探索キャッシュの有効期限は 7200 秒（2 時間）に設定されています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface Port-channel 189
Device(config-if)# no ip address
Device(config-if)# ipv6 address 2001:BD8::/64
Device(config-if)# ipv6 nd reachable-time 2700000
Device(config-if)# ipv6 nd na glean
Device(config-if)# ipv6 nd cache expire 7200
Device(config-if)# no ipv6 redirects
Device(config-if)# end
```

その他の参考資料

関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
この章で使用するコマンドの完全な構文および使用方法の詳細。	「IP アドレッシングサービス」のセクションを参照 <i>Command Reference (Catalyst 9300 Series Switches)</i>
IPv6 ネイバー探索インスペクションの詳細	「セキュリティ」のセクションを参照 <i>Software Configuration Guide (Catalyst 9300 Switches)</i>

IPv6 ネイバー探索の機能履歴

次の表に、このモジュールで説明する機能のリリースおよび関連情報を示します。

これらの機能は、特に明記されていない限り、導入されたリリース以降のすべてのリリースで使用できます。

リリース	機能	機能情報
Cisco IOS XE Everest 16.5.1a	IPv6 の拡張ネイバー 探索キャッシュ管理	ネイバー探索プロトコルは、障害のあるノードまたはルータ、およびリンク層アドレスの変更を検出できるネイバー到達不能検出を実行します。

Cisco Feature Navigator を使用すると、プラットフォームおよびソフトウェアイメージのサポート情報を検索できます。Cisco Feature Navigator には、<http://www.cisco.com/go/cfn> [英語] からアクセスします。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。